

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大和市鶴間1丁目 新築工事	階数	地上11F
建設地	大和市鶴間一丁目2808-77	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	70人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2021年11月15日
敷地面積	453㎡	作成者	株式会社クオリティ
建築面積	232㎡	確認日	2021年11月15日
延床面積	2,136㎡	確認者	株式会社クオリティ



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.2
温熱環境	2.9
光・視環境	3.5
空気質環境	3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	3.4
耐用性	3.1
対応性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	隣地境界線際の植栽など、良好な緑地環境に配慮している。	
その他		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
居室の昼光率を高めに設定し、光・視環境に配慮している。F☆☆☆☆の内装建材を採用、また、換気量や自然換気性能にも配慮し、室内空気質環境を良好にしている。	設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。情報通信設備については通信設備の多様化など、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている。敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性にも配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。	節水型便器を採用するなど、水資源の保護に努めている。ODP=0、GWP=3以下の断熱材を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避している。	駐輪場を確保し利便性に配慮、管理用車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される